

平成 29 年第 3 回区議会定例会 区長挨拶要旨

平成 29 年第 3 回区議会定例会の開催に当たりまして、ご挨拶を申し上げます。

平成 29 年度も半年余りが経過し、区政は、区議会並びに区民の皆様との連携・協働により、順調に推移しております。

はじめに、7月に九州北部地方を襲った豪雨や8月の台風5号によって、亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたします。また、各地の豪雨により被災された皆さまに心からお見舞いを申し上げます。区では、区役所本庁舎において義援金の受付を行い、多くの区民の皆さまからご協力をいただきました。お預かりした義援金については、福岡県と大分県の各東京事務所へお届けしたところでございます。

さて、本日開会されました定例会は、今期、第 21 期葛飾区議会の任期中における最後の定例会となります。平成 25 年 11 月以降、16 回の定例会に加えて1回の臨時会において、予算・決算、条例案など、数多くの重要な付議事件についてご決定をいただきました。

この間、私は、「夢と誇りあるふるさと葛飾」を実現するため、区議会・区民・事業者の皆さまと協働で、「子育て支援の充実」「誰もが住み慣れた地域で暮らせるまちづくり」「安全・安心の確保」「魅力と活力ある街づくり」など様々な分野に積極果敢に取り組んでまいりました。おかげをもちまして、病院誘致をはじめ、子育て環境の充実など、区議会の皆さまと協働し、区政の様々な施策や諸課題の解決に向けて着実に実現を図ることが出来たものと考えております。

改めて、深く感謝を申し上げます。

こうした中、今定例会に「平成 29 年度第二次補正予算案」を提案させていただいております。

補正予算の主な項目としては、待機児童解消のための私立保育所施設整備費助成を行うほか、東京都が推進する「花の都プロジェクト」の補助金を活用し、フラワーメリーゴーランドを駅周辺へ追加設置いたします。

また、震災時の通電火災を防止するための感震ブレーカー設置費助成の対象地域を拡大するほか、区内中小企業の円滑な事業承継の支援を行ってまいります。

さらに、都市計画マスタープランで治水対策重点検討区間に位置付けられている西新小岩地域の荒川・中川沿川について、治水対策の調査検討や、浸水に対応した建築物のモデル事業の検討を進めてまいります。

そのほか、特別養護老人ホーム整備費助成や、青戸六・七丁目地区の街づくりのための用地取得費などを計上したところです。

以下、「夢と誇りあるふるさと葛飾」を実現するための「重点施策及び重点事業」について概略を申し上げます。

第一に「子どもが健やかに育つまちづくり」について申し上げます。

まず、「保育所の待機児童解消への取組み」についてです。

今年度における待機児童の解消の取組みとして、これまでのところ、建替えも含めて認可保育所5施設、小規模保育事業所2施設の整備を支援し、合計353人の定員増を予定しているところです。

今回、これに加えて、「金町六丁目」、「柴又五丁目」及び「高砂二丁目」に認可保育所を、また、「東新小岩一丁目」に小規模保育事業所を整備していくことで協議が整ったため、これを支援いたします。

これらの施設の整備により、来年度期中の開設を含めて合計169人、また10月に無認可保育所から小規模保育事業所へ移行する「(仮称)東新小岩五丁目小規模保育園」、及びこれまでの整備計画も合わせますと、合計528人の定員拡大となります。

さらに、「子育て支援施設の整備方針」に基づく、亀が岡保育園の民営化による施設更新につきましては、今回、平成31年4月の開設に向けて、新たな私立保育所の整備にかかる補助金予算を計上いたしました。この施設更新に合わせまして、定員を、現在の97人から117人とするので、平成31年4月には更に20人の定員増を図ってまいります。

今後も、地域における保育需要を的確に捉え、様々な手法により待機児童解消に向けて取組みを進めてまいります。

次に、「中学生海外派遣事業」についてです。

昨年度に引き続き、今年度も8月19日から26日までの8日間、中学校2年生48名をオーストラリアへ派遣いたしました。

派遣された生徒たちは、ホームステイや現地の中学生との交流、小学校でのボランティア、現地で活躍する日本人からお話を伺うなどの体験を通して、「より積極的な自分に変えることができた。」「伝えようとする気持ちを強くもち、行動することが大切だということが分かった。」「今まで以上に英語が好きになった。もっと英語ができるようになりたい。」などの感想を語っておりま

した。8日間という短い期間の中ではありますが、大きな成長を遂げることが出来たと感じております。

海外派遣や様々な取組みを通じて、「英語によるコミュニケーション能力」と「21世紀型能力」を育み、これからのグローバル社会をたくましく生き抜いていく人材を育成してまいります。

第二に「健康でともに支えあうまちづくり」について申し上げます。

まず、「区民健康づくり」についてです。

「幸せの一步は、健康づくりから」をキャッチフレーズに、本年1月1日から「かつしか健幸マイレージ」事業を開始し、第1回目として160名の方にご参加いただきました。この事業は、区健康診査やがん検診、区のスポーツ事業等へ参加するとともに、各自でウォーキングや体操などの目標を立て、自主的に健康づくり活動を行うもので、現在は、第2回目の応募を開始しています。今後、回数を重ねることで、より多くの区民の健康づくり意識を高めてまいります。

また、スマートフォンまたは活動量計を使用して、歩数や消費カロリーなどの計測を行う「かつしか健康チャレンジ事業」を10月からの実施に向け、準備を進めております。

これらの事業を通して、区民が自らの健康を意識し、健康づくりに取り組むきっかけを提供し、楽しみながら健康づくりを実践していただくことで、区民の健康寿命の延伸を図ってまいります。

次に、「ピンクリボンキャンペーン」についてです。

乳がんは、30歳から64歳の女性の死亡原因のトップで、40歳代から50歳代までの働き盛りの世代に多い病気です。早期に発見し治療すれば、その多くが治るため、がん検診を受けることと、毎月のセルフチェックを行うことがとても重要とされています。

葛飾区では、10月の乳がん月間に、区役所区民ホールで啓発パネル展や駅頭での啓発グッズの配布等を行なうピンクリボンキャンペーンを実施します。

区民の皆さまに、早期発見のための検診の大切さを知っていただき、積極的に乳がん検診を受診していただくための取組みを行ってまいります。

次に「就学前の児童の療育の場の確保について」です。

就学前の発達相談や5歳児健診事業の実施などにより、発達の遅れが心配され、療育を必要とする子どもが顕在化しており、年々、療育を希望する方が増えています。特に幼稚園や保育園に通いながら療育施設にも通っている児童の保護者からは、できるだけ身近な場所で支援を受けたいという声があります。

このたび、ウェルピアかつしかに隣接する旧宝木塚小学校しょうぶ学級校舎を改修し、子ども発達センター別館として10月から利用を開始いたします。

また、現在、療育施設がない新小岩や奥戸など区の南部にも児童発達支援事業所が必要であると考えており、新小岩北地域複合施設の整備に合わせて設置してまいります。

次に、「かつしかふれあいRUNフェスタ」についてです。

「第4回かつしかふれあいRUNフェスタ2018」は、来年3月11日に開催することになりました。それに先だち10月からは区民の先行募集を開始いたします。

このイベントは、「全国ランニング大会100撰」に選ばれるなど人気が高く、全国から約7,500人規模のランナーが参加します。また、地域ランナーの育成、地域と区民の相互交流を深めることも目的としていることから、第2回の開催時から青少年育成地区委員会の小中学生を含む招待選手枠を設けております。

ご家族そろって走ることができるファミリーランをはじめ、今年度も多くの方が一緒にランニングを楽しむことができるイベントとなるよう準備を進めてまいります。

次に、「陸上競技場大規模改修工事」についてです。

奥戸総合スポーツセンター陸上競技場は、前回の走路改修工事から10年が経過し、改修が必要な状況となっているため、昨年度から設計を進めています。具体的には、陸上競技場のレイアウト変更をすることで、国際大会及び国民体育大会等の全国規模のサッカー大会に必要な競技場の大きさを確保いたします。そのほか、外周フェンス、観覧席棟の外壁改修・空調機の入替工事・トイレの洋式化等も併せて行う予定です。

工期は、10月に開催するスポーツフェスティバルの終了後から、平成30年6月末までの期間となり、その間、陸上競技場は利用できない状況となりますが、リニューアル後は、これまで以上に質の高いスポーツ事業の展開が可能となるため、さらに多くの方々に利用していただけるようになるものと考えております。

第三に「安全・安心なまちづくり」について申し上げます。

まず、「道路橋梁の維持管理」についてです。

本区が管理する橋の長さが15メートル以上の橋梁のうち、約四分の一が竣工から50年を超える状況です。区では、平成27年度に策定した橋梁長寿命化修繕計画に基づき、橋梁の長寿命化及び維持管理費の縮減・平準化を図るとともに、地域における道路網の安全性・信頼性を確保する

ため、予防的な修繕及び架替えを行っているところです。

予防的修繕としては、平成 23 年度から小松橋の工事に着手し、現在、総武線の線路敷上空の補修を J R に委託し進めているところで、平成 34 年に完了する予定です。また、奥戸橋については、今年度から 3 か年で補修を行う予定となっております。

架替えにつきましては、昨年度から八剣橋の架替え工事に着手しており、仮設人道橋の設置が 7 月に完了しました。引き続き、現在の橋梁の撤去を進めるため、本定例会に八剣橋橋梁架替（その 3）工事の請負契約締結について議案を提案しております。

引き続き、安全かつ快適に移動できるまちづくりを推進してまいります。

次に、「新小岩駅周辺の街づくり」についてです。

新小岩駅周辺におきましては、地域のまちづくり協議会が策定した「新小岩駅周辺地区街づくり基本計画」に基づき、具体的な街づくりの実現に向け、協働で取り組んでいるところです。

平成 25 年 12 月から工事に着手しております J R 新小岩駅南北自由通路整備につきましては、昨年度末に貨物線及び総武快速線下の盛土部分の掘削が完了し、通路としての空間が確保されました。今年度は、主に貨物線下のボックスカルバート構築工事や総武快速線の高架橋構築工事等を実施しており、平成 30 年夏頃に自由通路の暫定使用を開始し、平成 31 年夏頃の完成を予定しております。

また、自由通路の完成に合わせて、北口駅前広場の暫定整備及び南口駅前広場のバリアフリー化等を予定しており、今年度は整備に向けた基本設計を行ってまいります。

次に、「立石駅周辺地区の街づくり」についてです。

立石駅北口地区では、平成 19 年度に市街地再開発準備組合が設立され、これまで準備組合が主体となって合意形成を進め、機運の醸成に努めてきたところです。

区では、これらの状況を踏まえ、市街地再開発事業の実施に向け、都市計画法に基づく手続きを進めてまいりました。

こうした中、5 月 30 日に開催された葛飾区都市計画審議会には、「立石駅北口地区第一種市街地再開発事業の決定について」の他、関連する都市計画案 3 件を付議し、いずれも賛成多数で可決されたことを受けて、6 月 6 日に都市計画決定及び都市計画変更の告示をいたしました。

今後、準備組合では、施設建築物の設計に着手し、地区内の建物調査や、本組合の設立に向けた権利者説明会、意向調査等を実施することとなります。

引き続き、昨年、工事に着手した京成電鉄押上線四ツ木駅・青砥駅間の連続立体交差事業との

連携を図るとともに、立石駅南口東地区市街地再開発準備組合及び本年2月に設立された立石駅南口西地区市街地再開発準備組合と協働しながら、立石駅周辺地区の街づくりを推進してまいります。

第四に「魅力と活力あふれるまちづくり」について申し上げます。

まず、「葛飾柴又寅さん記念館」と「寅さんサミット2017」についてです。

8月26日に名誉館長である山田洋次監督、倍賞千恵子さん、そして、来館450万人目のお客様をお招きし、葛飾柴又寅さん記念館開館20周年記念式典を実施し、盛大にお祝いをいたしました。また、11月1日から翌年1月14日までの期間、「寅さん記念館20年の歩み」と題した特別展示を実施し、これまでの記念館の歴史を振り返りながら、映画「男はつらいよ」の魅力を多くの方にご覧いただきます。

また、11月25日・26日には、今年が3回目となる「寅さんサミット2017」を開催いたします。今年度は、映画「男はつらいよ」の全国のロケ地から昨年度を超える17の地域の参加希望をいただきました。「日本の原風景を守り、後世に伝える」をテーマに、葛飾区と全国各地との連携・相互交流を通じて、それぞれの地域の魅力を存分に発信し、知名度の向上と地域の活性化に繋げるとともに、全国からお越し頂く多くの方を丁寧におもてなしし、再び訪れたいと思っただけの2日間としてまいります。

次に、新小岩地域では、モンチッチを活用した観光振興として、地域の皆さまが実施する新小岩駅東北ひろばまつりでの連携事業を行います。モンチッチのファンであり、レーシングドライバーである吉岡一成よしおかかずなりさんをゲストとしてお迎えするとともに、イベント会場にてモンチッチデザインのマンホールカードを配布し、モンチッチに会えるまち かつしかを演出いたします。

そのほか、亀有地域の商店街や自治町会などと区の協働により立ち上げた「おいでよ亀有実行委員会」事業として、亀有駅前を華やかに彩るイルミネーションを11月17日から2月末までの間で実施します。期間中には、関連のイベント等も実施しながら、亀有地域の賑わいを演出し、観光客の誘客へとつなげてまいります。

加えて、昨年度、初めて開催した「ライティング・コラボレーションかなまち」につきましては、今年度は、金町地域の商店会や自治町会などで構成する実行委員会が組織され、11月18日から2月末までの間でイルミネーションを、11月18日・19日には理大祭と協働で理科大プロジェクトマッピングを実施します。また、12月中旬には金町地域の商店や葛飾区とゆかりのある市町村からの出店によるマーケットを開催します。地域の商店会、自治町会、東京理科大学などと協働しながら、金町地域の新たな観光資源づくりに取り組んでまいります。

さらに、観光情報の発信につきましては、国内外の観光客を広く集客する取組みとして、昨年
に引き続き、9月21日から24日まで東京ビッグサイトで開催される世界最大級の旅の祭典「ツ
ーリズムEXPO^{エクスポ}ジャパン2017」に葛飾区のブースを出展いたします。国内外から多数の出展者や旅
行業界の関係者、あるいは一般来場者が集う機会を有効に活用し、葛飾区をPRしてまいります。

そのほか、台湾のブロガーや現地メディアを招請して、海外の方の目線から葛飾区の魅力を再
発見し、そして、SNSを活用して発信するなど、国内外に向けた多角的なプロモーションを行
ってまいります。

次に、「ふるさと葛飾盆まつり」についてです。

葛飾区自治町会連合会と区が主催する「ふるさと葛飾盆まつり」は今回が第一回目でしたが、
荒天のため中止といたしました。

朝の時点では開催に支障のない気象予報であったことから、開催を決定し準備を進めておりま
したが、正午近くから雨が強くなり、その後、東京23区東部に大雨警報が発令されるまでにな
り、盆踊りのやぐら周りの芝生もぬかるむ状態となりました。

そのため、会場の状況と踊り手の皆さまや来場者の安全・健康を第一に考え、やむなく中止の
決定をいたしました。

盆まつりを楽しみにされていた皆さまには、残念な結果となりましたが、踊りの練習を重ねて
きた各地区の中には、早速、地域のイベントで踊りを披露しようと、前向きに気持ちを切り替え
たとのお話もいくつかお聞きしているところです。

今回の経験を十分に活かし、次回はより多くの皆さまに喜び・楽しんでいただけるよう、準備
を進めてまいります。

次に、「商工振興」についてです。

伝統工芸の技術継承を目的として実施する「葛飾区伝統工芸職人弟子入り支援事業」は、10月
からの受入開始を前に講習生を選考しているところです。今後、3か月間の講習期間を経て、本
人の適性などを見極めながら、次のステップにつなげ、伝統工芸士の優れた技能を次世代に継承
してまいります。

また、今年度の「葛飾区産業フェア」は、前半の「工業・商業・観光展」を10月20日からの
3日間、後半の「農業・伝統産業展」を翌週27日からの3日間と、2週にわたり開催いたします。
各産業団体との協働により、ご来場される区民の方々に葛飾の産業を存分に紹介してまいります。

さらに、リビジットをコンセプトとした「かつしかフードフェスタ」を11月18日、19日の2

日間、新小岩公園で開催いたします。第4回目の今回は、新たな出展となる13店舗を含めた48店舗が、幅広いジャンルから多種多様なメニューを揃え、多くのお客様に楽しんでいただけるよう工夫を凝らしてまいります。

次に、「事業承継支援」についてです。

区内産業の継続的な展開を促し、地域の活力を維持していくためには、区内事業所が円滑に次の世代に受け継がれて行く必要があります。

区は、東京商工会議所葛飾支部、区内金融機関、中小企業診断士、税理士と連携して、事業承継についての講演会の開催や相談体制の充実を行い、事前準備の大切さや承継に必要なノウハウについての情報提供を進めてまいります。また、事業承継支援融資制度を新設し、必要となる資金についての融資あっせんを行い、資金面からも円滑な事業承継を支援いたします。

次に、「タカラトミーとの連携事業」についてです。

区は、7月26日に地元企業であり日本を代表する玩具メーカーである株式会社タカラトミーと連携・協力に関する協定を締結し、その第一弾として7月26日から9月3日まで、郷土と天文の博物館において、特別展「かつしかホビトリー“おもちゃの街かつしかとタカラトミー”」を開催いたしました。

タカラトミーの代表的な玩具を中心に、本区の地場産業製品である「おもちゃ」の移り変わりをわかりやすく解説した展示や実際に「おもちゃ」を使っただけの体験コーナーなどが世代を超えて人気を博し、開催期間中は多くのお客様にお越しいただき、大いに楽しんでいただくことができました。

今後も、相互の連携・協力のもと、さらに多様な取り組みを実施していくことで地域の活性化や区政のPRなどを進めてまいります。

次に「花いっぱいのもちづくり」についてです。

かつしか花いっぱいのもちづくり推進協議会では、昨年4月にプロジェクトチームを立ち上げ、公共空間への新たな手法による立体的な花の展開を検討し「フラワーメリーゴーランド」を考案いたしました。

現在は、プロトタイプによる実証試験に取り組んでいるところですが、この事業が、東京2020（ニーゼロニーゼロ）オリンピック・パラリンピック大会の開催に向けて、東京の街を花と緑で彩り、おもてなしの機運を高めるための東京都の新規事業「花の都プロジェクト」に位置付けら

れました。

そのため、現在 10 基で行っている実証試験を拡充し、多くの人が行き交う駅周辺へ新たに 7 基のプロトタイプを設置し検証してまいります。

第五に「人にやさしく住みよいまちづくり」について申し上げます。

「葛飾区地球温暖化対策実行計画」についてです。

現在、平成 30 年度からの 13 年間を計画期間とする「葛飾区地球温暖化対策実行計画」を策定しています。このたび、区民や学識経験者等からなる「葛飾区地球温暖化対策実行計画策定委員会」での検討を経て、計画の骨子(案)をとりまとめました。

今後、パブリックコメントを実施し、さらに広く区民のご意見をお聴きして、来年 3 月の策定に向けて検討を進めてまいります。

次に、「葛飾区人材育成基本方針の改定」についてです。

平成 22 年 3 月に策定した「葛飾区人材育成基本方針」について、その後の職員の年齢構成や意識の変化、地方公務員法の改正、国による働き方改革の推進といった環境変化や職員意識調査の結果に基づき判明した職員育成に係る課題を反映させることを目的とした改定を行います。

改定の方向性として、かつしか人づくり宣言を発展させた「葛飾区職員としての使命」と私が求める理想の 5 つの職員像を基本に、「人材育成に対する職員の意識改革」「人事考課制度を活用した人材育成の推進」「新たな研修基本方針の策定」「組織力のさらなる向上に向けた取り組みの推進」の 4 つの視点を掲げ、これまで以上に「人づくり」に力を注ぎ、さらなる区民サービスの向上につながるよう努めてまいります。

次に、「自治町会長連絡会及び区民と区長との意見交換会」についてです。

去る 7 月 4 日、12 日、27 日に開催した「自治町会長連絡会」は、3 日間で 113 人の自治町会長のご出席をいただき、39 項目にわたって、地域の活性化や住みよいまちづくりに向けた真摯なご意見がありました。

また、8 月 26 日、28 日、29 日には、『協働で未来をひらく「ふるさと かつしか」』をテーマに、総合スポーツセンター温水プール館など区内の 3 会場で、区民の方々との意見交換をいたしました。今年度も、たくさんの方から幅広い分野についてご意見をいただき、どのご意見からも「区をよくしていきたい」という熱い想いを感じることができました。

これからも、さまざまな機会を通じて区民の方々の声をしっかりと受け止め、区政課題の解決

や新たな施策の展開へとつなげることで、「区民第一」「現場第一」の区政運営を推進してまいります。

次に、「地方版図柄入り新ナンバープレート」についてです。

これまで国土交通省においては、自動車登録番号標及び車両番号標、いわゆるナンバープレートの多角的な活用を図る観点から、また、地域振興・観光振興へ活用する観点から「ご当地ナンバー」導入の取組みを進めてきました。

このたび、地域名・図柄入りの新ナンバープレートを交付することが可能となったことから、本区においても、この導入について検討することといたしました。導入にあたりましては、区民の意向把握が必須となります。そのため、今後、区民や関係団体の皆さまへの意向調査を実施してまいります。

最後に、「国際交流」についてです。

本年は、ウィーン市フロリズドルフ区とは30周年、北京市豊台区とは25周年と友好都市提携の締結から節目の年にあたり、多数の訪問団が本区を来訪し友好を深めています。

7月初めにフロリズドルフ区のゲオルク・パパイ区長をはじめとする政府訪問団をお迎えしました。区と区議会による合同表敬訪問式をはじめ、北住吉幼稚園や中之台小学校、スポーツ施設や区内の病院を視察しました。特に、柴又の「フロリズ通り」の名称板除幕式については、後日、パパイ区長から私宛に届いたお礼状の中で「東京にフロリズ通りができたことは、貴区との友好提携が目に見える形になったということで、私にとって誇りです。」と感想を述べられ、オーストリアの日刊紙5紙に掲載された除幕式の記事を同封してくださいました。訪問団の皆様は全日程を通じ、子どもたちや地域の方々と積極的に交流され、今回の訪問が30周年の節目にふさわしい、両区の友情を一層深めるものになりました。

北京市豊台区からは7月中旬に、北京市青少年キャラバン訪日団の中学生が新宿中学校を、豊台区青少年友好訪問団が清和小学校を訪問し、それぞれ音楽やスポーツの交流を行いました。

また、日中国交正常化45周年を記念し8月に北京市で開催された「日中友好交流都市中学生卓球交歓大会」へ本区の中学生2名を派遣しました。彼らは、豊台区の選手をはじめ、日本及び中国の他都市の選手とも友情の輪を広げ、卓球の技術のみならず、国際感覚にも磨きをかけ、大きく成長したものと考えています。

さらに、マレーシア・ペナン州との友好交流も30周年を迎え、8月に5名の区民を派遣しました。ペナン州のホームステイにより得られた体験は、11月5日のかつしか国際交流まつりで、そ

それぞれの体験の報告とマレーシアの文化を紹介することになっています。

友好都市、姉妹都市と今後も様々な形で交流を深め、オリンピック・パラリンピックへの対応とも相まって、本区が世界に開かれた地域社会となるようにしてまいります。

以上、「夢と誇りあるふるさと葛飾」の実現に向けた主要事業の進捗状況を中心に申し上げます。

その他、今定例会にご提案を申し上げます案件につきましては、上程の折に主管者から詳細にわたりご説明いたしますので、よろしくご決定をいただきますようお願い申し上げます。平成29年第3回区議会定例会の開催にあたりましての私の挨拶といたします。